

奈良県立添上高等学校の探究活動を実施しました

12月9日と12日に、奈良県立添上高等学校普通科人文探究コースの探究活動を実施しました。添上高等学校人文探究コースは令和3年度に開設され、昨年度に引き続き、一期生となる二年生、二期生となる一年生が異なるテーマで講義を受講しました。

9日に実施された二年生の探究活動では、18歳の成人を目前に控える高校生に対し、学校教育講座の橋崎頼子准教授が「多文化共生」の社会はどのようなものなのか「シティズンシップ教育」の視点から講義を行いました。参加した高校生は、反対の立場からの意見に対してどのようにアプローチするか、学校生活の中で改善したいことを、「どのように」「誰に提案していくか」というワークショップを通じて、身近にある「社会」への理解を深めました。

講義後は、大学施設の見学や大学生協での昼食など、普段とは異なる空間での活動を楽しみました。



講義、
ワークショップと
図書館見学の様子



12日には、一年生に対し、奈良教育大学教育連携講座の中澤静男教授と大西浩明特任准教授により、「奈良から学ぶSDGs」の講義とフィールドワークを実施しました。

参加した高校生は「東大寺コース」と「ならまちコース」にわかれ、奈良にある歴史文化遺産とSDGsの関連について講義を受けた後、「東大寺コース」では大仏殿や二月堂、「ならまちコース」では元興寺やからくりおもちゃ館などを巡り、従来の遠足や観光とは異なる視点から奈良の歴史文化遺産を見学・体験しました。

フィールドワーク後には、短時間で学びをまとめる即興プレゼンを行い、一日の学びを発表しました。

発表では、フィールドワークを通じてみつけた持続可能な社会の維持のためのキーワードや、「自分は今日からこれをしたい」というそれぞれの決意が発表され、担当した中澤教授、大西特任教授からは、「ぜひ今日感じたことを、実行してほしい」と講評がありました。

ならまちコースの様子



東大寺コースの様子



即興プレゼンの様子

